

科目名称	図学				
教員名/実務経験	米田匡志/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	1	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	共通基礎	授業の種類	実習
概要	作図の基礎、表現方法を学ぶことから始め、さまざまな立体や空間の見方、捉え方のレッスンを する。 ドリル形式の教材を使って、毎回授業の前半に講義、後半に実習を行う。				
目的	建築設計に取り組んでいくための初期基礎学習として、図面が理解でき、遠近感や奥行の 感覚が身に付くようにする。				
到達目標	道具を正しく使い、早く正確に線が描ける。 平面的な基礎図法を理解し、作図が出来る。 二次元の情報から立体のイメージが出来るようになる。 基本的な立体のモデルを投影法を使って表現できる。				
到達目標に向けての 具体的な取り組み	全てにおいて手を動かしながら理解を深めていく。 薄く印刷された手本をなぞることからはじめ、授業時間内で扱えなかった演習問題 にも出来るだけ自主的に取り組むこと。				
準備学習の具体的 な方法	毎回宿題を与えるので、教科書の当該ページを復習し、次回授業までに仕上げる こと。				
単位認定の方法	授業中の演習への評価 20%、課題提出状況・内容への評価 20%、定期試験結果 40%、 出席・平常点 20%とし、総合評価が60点以上の場合、単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 作図基礎1 直線・円を描く</li> <li>2 作図基礎2 円弧を描く・黄金比渦巻き</li> <li>3 作図基礎3 図形の等分割</li> <li>4 平面表現1 陰影をつけ、立体感を表現する</li> <li>5 平面構成1 さまざまな平面構成・対称性について</li> <li>6 平面構成2 テーマに基づく平面構成(動と静など)</li> <li>7 平面の複製 縮尺と図の拡大・縮小について</li> <li>8 定期試験1</li> <li>9 三面図と立体1 展開図とは・立体から三面図へ</li> <li>10 三面図と立体2 三面図から立体を想像・立体的に描く</li> <li>11 立体の捉え方 立体的なモノを三面図・断面図で描く</li> <li>12 立体造形 スチレンボードで立体を作る</li> <li>13 投影法1 アクソメ図で立体を描く</li> <li>14 投影法2 アイソメ図で立体を描く・遠近感の表現</li> <li>15 定期試験2</li> </ul>	0

科目名称	建築積算				
教員名/実務経験	田谷孝壽/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書を中心に講義を行う。 実際のプロジェクトの設計図書や見積書、施工現場写真等の資料を交え、生産プロセスの実態について概説する。				
目的	建築積算の意義を学ぶ。基礎的積算手法を習得する。 「建築積算士補」の資格修得を目指し、建築生産プロセスにおいて欠くことのできない積算業務に携われる能力を養う。				
到達目標	建築生産プロセスの流れを把握する。 建築積算業務の役割と意義を理解する。 基礎的な躯体数量積算が出来る。 基礎的な仕上げ数量積算が出来る。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	特にないが、授業で理解できなかった事項は、次回授業までによく復習しておくこと。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 建築積算とは 建築積算の役割</li> <li>2 建築生産プロセスの概要</li> <li>3 入札の種類、工事の発注・契約方式、数量公開</li> <li>4 積算業務の概要</li> <li>5 設計図書とは</li> <li>6 工事費の構成</li> <li>7 建築コストにおける数量と単価 内訳書とは</li> <li>8 定期試験1</li> <li>9 建築数量積算基準について</li> <li>10 数量の計測・計算(土工・地業)</li> <li>11 数量の計測・計算(躯体)</li> <li>12 数量の計測・計算(仕上)</li> <li>13 仮設工事・設備工事の積算</li> <li>14 LCC(ライフサイクルコスト) VE(バリューエンジニアリング) 概算</li> <li>15 定期試験2</li> </ul>	<p>授業計画2</p>

科目名称	建築法規				
教員名/実務経験	田谷孝壽/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書を中心に講義を行い、建築基準法を中心とした建築関連の法制度について概説する。 表や図、多くの実例写真など実用的な資料を使用し、理解を深める。				
目的	社会では建築物が設計段階から建設まで様々な建築法規の規定を受けていることを認識し、その建築法規の基本となる建築基準法の知識を身につけ、法規の目的・内容について理解を深める。				
到達目標	建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる 建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる 法令の本旨を織り込んだデザインをする力を習得できる 建築士試験受験の基礎を習得できる				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業で習った条文をインターネットなどで検索する。 条文が適用された現場を発見し、メモや写真に残すなど、常日頃から心がける。				
準備学習の具体的な方法	予習としてテキストの該当する文章や図表を一読しておくこと。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 総論</p> <p>2回 用語の定義1(建築物、工作物、居室、高さ、面積etc…)</p> <p>3回 用語の定義2(主要構造部、耐火建築物、不燃材料etc…)</p> <p>4回 用語の定義3(地盤面、地階、階数etc…)</p> <p>5回 単体規定1(居室の採光・換気・天井高さetc…)</p> <p>6回 単体規定2(階段・出入口・廊下等の寸法etc…)</p> <p>7回 単体規定3(内装制限、防火区画etc…)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 集団規定1(道路、用途地域etc…)</p> <p>10回 集団規定2(建ぺい率、容積率etc…)</p> <p>11回 集団規定3(いろいろな高さ制限)</p> <p>12回 集団規定4(日影規制etc…)</p> <p>13回 都市計画法のあらまし</p> <p>14回 建築士法・建設業法のあらまし</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	CAD実習 I				
教員名/実務経験	森由利子/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	共通基礎	授業の種類	講義
概要	実務経験をいかして、CADに関する基礎的講義を行い、プリントによる課題を中心にCADの実技を行う。				
目的	CADで建築図面を描くために必要な機器、CADの種類、CADの特性を理解する。また、建築についての基本的な約束事項や表現方法、建築製図の種類や目的について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン及びCADソフトAUTOCADの基本操作が出来る。</li> <li>・基礎的な図法を覚え、CADを用いて簡単な図面のトレースが出来る。</li> <li>・図、画像、文章等を用いて、独自の発想や感性に基づく表現ができる。</li> </ul>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	反復して実践を重ねることがCAD操作習得の近道である。与えられた課題が出来て時間が余った場合も、おさらいや応用課題に取り組むなど、授業中に出来るだけパソコン、CAD操作に時間を割くこと。				
準備学習の具体的な方法	授業外における学習は特に必要ないが、日頃他の授業で接する建築図面の表現に関心を持つようにすること。図面の縮尺、必要情報、その見やすさ・美しさなど、常に注意を払って参考にする事。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
1回 CAD操作 1 AutoCAD 最新版(建築図面の種類とCADについて)	16回 CAD操作 14 AutoCAD 最新版(文字の記入)
2回 CAD操作 2 AutoCAD 最新版(基本操作1)	17回 CAD操作 15 AutoCAD 最新版(文字の編集)
3回 CAD操作 3 AutoCAD 最新版(基本操作2)	18回 CAD操作 16 AutoCAD 最新版(コンテンツの管理)
4回 CAD操作 4 AutoCAD 最新版(建築図面テンプレート作成)	19回 CAD操作 17 AutoCAD 最新版(イメージの表示)
5回 CAD操作 5 AutoCAD 最新版(建築製図用環境設定)	20回 CAD操作 18 AutoCAD 最新版(寸法の作成)
6回 CAD操作 6 AutoCAD 最新版(オブジェクトの作成1)	21回 CAD操作 19 AutoCAD 最新版(文字の記入～平面図に寸法を記入する)
7回 CAD操作 7 AutoCAD 最新版(オブジェクトの作成2)	22回 第3回定期試験
8回 第1回定期試験	23回 CAD操作 20 AutoCAD 最新版(レイアウト)
9回 CAD操作 8 AutoCAD 最新版(オブジェクトの編集1)	24回 CAD操作 21 AutoCAD 最新版(印刷)
10回 CAD操作 9 AutoCAD 最新版(オブジェクトの編集 2)	25回 CAD操作 22 AutoCAD 最新版(ファイルの取り込み)
11回 CAD操作 10 AutoCAD 最新版(オブジェクトの編集 3)	26回 CAD操作 23 AutoCAD 最新版(ファイルの取り出し)
12回 CAD操作 11 AutoCAD 最新版(簡単な間取りのトレース 1)	27回 CAD操作 24 AutoCAD 最新版(実技課題 ワンルームマンションのトレース 1)
13回 CAD操作 12 AutoCAD 最新版(簡単な間取りのトレース 2)	28回 CAD操作 24 AutoCAD 最新版(実技課題 ワンルームマンションのトレース 2)
14回 CAD操作 13 AutoCAD 最新版(簡単な間取りのトレース 3)	29回 CAD操作 24 AutoCAD 最新版(実技課題 ワンルームマンションのトレース 3)
15回 第2回定期試験	30回 第4回定期試験

科目名称	建築施工				
教員名/実務経験	高島大輔/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	<p>施工の基本を重点に建物を造る仕組みや、プロセス、工事の計画、工事監理、施工法及び各施工技術について、教科書を中心に講義を行い、演習も交えながら理解を深める。建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。</p>				
目的	<p>建築施工は、建築生産における一連の技術活動の最終段階で、設計を忠実に実現させなければならない非常に重要な技術分野であることを理解させる。また、各工法や経営についても理解させ、建築士試験にも対応可能な知識を習得させる。</p>				
到達目標	<p>建築物を設計図書通りに完成し、引き渡すまでの施工技術全般の基本を習得する。建築工事に関する契約・法令・品質管理の手法等について理解する。各工事についての基礎的知識を身に付ける。</p>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	<p>各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。</p>				
準備学習の具体的な方法	<p>予習としてテキストの該当する文章や図表を一読しておくこと。</p>				
単位認定の方法	<p>定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。</p>				
評価の基準	<p>評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。</p>				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 請負契約、請負制度1(民法における請負契約、建設業法、発注、入札)</p> <p>2回 請負契約、請負制度2(請負契約、建設業の現状、工事請負契約約款)</p> <p>3回 施工一般1(施工計画、地盤調査、仮設工事)</p> <p>4回 施工一般2(土工事、地業・基礎工事、鉄筋工事)</p> <p>5回 施工一般3(型枠工事、鉄骨工事)</p> <p>6回 施工一般4(コンクリート工事)</p> <p>7回 施工一般5(壁式プレキャスト鉄筋コンクリート工事、ブロックコンクリート工事)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 施工一般6(煉瓦工事、ALCパネル工事、石工事)</p> <p>10回 施工一般7(タイル工事、木工事、屋根工事)</p> <p>11回 施工一般8(建具工事、防水工事)</p> <p>12回 施工一般9(左官工事、吹付工事、塗装工事)</p> <p>13回 施工一般10(内装工事、測量)</p> <p>14回 施工一般11(積算、仕様)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	施設・店舗設計				
教員名/実務経験	石上芳弘/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義・実習
概要	教科書を中心に商業建築を主として講義を行う。実技課題も行う。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義・指導を行う。				
目的	さまざまな建築施設の中で、特に商業施設を取り上げ、その建築計画の基本を学ぶ。また、多くの事例に触れ、演習を行いながら、デザインの基礎と理論を学び、技術を習得する。				
到達目標	商業施設の計画にあたり、基本的な計画・構造・設備等について理解する。 魅力的な商業施設の計画・提案ができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。 普段の外出時に、これはよいと思える店舗の計画や設備等を見て、記録すること。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>前期</p> <p>1回 商業施設の種類、事例説明</p> <p>2回 一般計画(配置計画、屋外計画、平面計画、意匠計画など)</p> <p>3回 構造計画(構造の選定、柱・梁の配置、階高など)</p> <p>4回 設備計画(設備の概要、給排水・電気・防災設備など)</p> <p>5回 各部の設計(店頭・販売スペース・厨房など)</p> <p>共通部分の設計</p> <p>6回 課題 1(すし店1)</p> <p>7回 課題 1(すし店2)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 課題 2(男子洋品店1)</p> <p>10回 課題 2(男子洋品店2)</p> <p>11回 課題 3(喫茶店1)</p> <p>12回 課題 3(喫茶店2)</p> <p>13回 課題 4(趣味の陶品店1)</p> <p>14回 課題 4(趣味の陶品店2)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>後期</p> <p>16回 課題 5(書籍店1)</p> <p>17回 課題 5(書籍店2)</p> <p>18回 課題 6(スポーツ用品店1)</p> <p>19回 課題 6(スポーツ用品店2)</p> <p>20回 課題 7(自家製のパンとケーキ店1)</p> <p>21回 課題 7(自家製のパンとケーキ店2)</p> <p>22回 第3回定期試験</p> <p>23回 課題 8(居酒屋1)</p> <p>24回 課題 8(居酒屋2)</p> <p>25回 課題 9(靴店1)</p> <p>26回 課題 9(靴店2)</p> <p>27回 課題10(レディースファッションショップ1)</p> <p>28回 課題10(レディースファッションショップ2)</p> <p>29回 課題10(レディースファッションショップ3)</p> <p>30回 第4回定期試験</p>

科目名称	建築設計製図 I				
教員名/実務経験	石上芳弘/有・成松正朗/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	8	学年	1	履修形態	必修
時間数	240	科目区分	専門基礎	授業の種類	実習
概要	前期は石上先生が小規模RC造事務所の、成松先生が木造住宅の図面のトレースを担当し、双方の課題を並行して進めていく。 後期は石上先生が大阪府公共建築室のコンペ課題(※)を、成松先生が2世帯3世代住宅の				
目的	製図用具の正しい扱い方、図法による物体の図式、日本工業規格(JIS)にもとづく製図法の基本を理解する。 トレース及び基本的な作図を通して製図の基礎を習得する。 後半では、設計課題に取り組み、自分で考えた空間を製図で表現する技術を養う。				
到達目標	図面の種別ごとに求められる表示事項を理解し、自らが建築の基本図面を作成することができる。 図面トレースの課題を通して、ドア幅や廊下幅、階段やWCといった基礎的な単位空間の寸法を理解し、図面上に適切に表現できる。 与えられた条件を整理・理解して適切な建築計画・製図が出来る。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。 普段の外出時に、これはよいと思える建築をスケッチや写真などの記録に残すこと。				
準備学習の具体的な方法	要求提出物をすべて期限内に完了・提出しなければ単位は取得できないので、授業計画に沿って、遅れが生じないように、授業時間外での学習に励むこと。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
前期-週4回…1回につき2時間(45分×2)	後期-週4回…1回につき2時間(45分×2)
1回 製図の基本	61回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 課題説明1
2回 製図の基本	62回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 課題説明2
3回 製図の基本	63回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 課題説明1
4回 製図の基本	64回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 課題説明2
5回 製図の基本	65回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
6回 製図の基本	66回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
7回 製図の基本	67回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
8回 製図の基本	68回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
9回 実技課題1 木造住宅のトレース(手本を参照して配置図・各階平面図・断面図・立面図・矩形図をA2用紙に描く)	69回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
10回 実技課題1 木造住宅のトレース	70回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
11回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース(手本を参照し各階平面図・断面図・立面図・矩形図をA2用紙に描く)	71回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
10回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	72回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
11回 実技課題1 木造住宅のトレース	73回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
12回 実技課題1 木造住宅のトレース	74回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 エスキス
13回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	75回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
14回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	76回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 エスキス
15回 実技課題1 木造住宅のトレース	77回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 中間発表会
16回 実技課題1 木造住宅のトレース	78回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 中間講評会
17回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	79回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 中間発表会
18回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	80回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 中間講評会
19回 実技課題1 木造住宅のトレース	81回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計 (以降、製図・模型製作など)
20回 実技課題1 木造住宅のトレース	82回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計
21回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	83回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題 (以降、製図・模型製作など)
22回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	84回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題
23回 実技課題1 木造住宅のトレース	85回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計
24回 実技課題1 木造住宅のトレース	86回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計
25回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	87回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題
26回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	88回 実技課題4 大阪府公共建築室のコンペ課題
27回 実技課題1 木造住宅のトレース	89回 実技課題3 2世帯3世代住宅の設計
28回 実技課題1 木造住宅のトレース	
29回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	
30回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	
31回 実技課題1 木造住宅のトレース	
32回 実技課題1 木造住宅のトレース	
33回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	
34回 実技課題2 RC造の小規模事務所のトレース	
35回 実技課題1 木造住宅のトレース	

科目名称	建築設計製図Ⅱ				
教員名/実務経験	岩本賀件/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	4	学年	2	履修形態	必修
時間数	120	科目区分	専門	授業の種類	実習
概要	プリントをもとに建築実例を学ぶ。実技課題を与え、建築士としての経験をいかした指導・講評を行う。 後期では大阪府公共建築室のコンペ課題(※)を題材とする。				
目的	各種構造・用途の建築実例をもとに設計コンセプトのまとめ方、デザインの手法などを学ぶ。課題演習のエスキス、製図、プレゼンテーションを通して設計技術を養う。				
到達目標	中規模建築の設計計画を構想し、図面によって表現することができる。 中規模建築に関する構造・材料・設備などの基本知識が理解できる。 プレゼンテーションとして適切な図面や模型が作成できる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。 普段の外出時に、これはよいと思える建築をスケッチや写真などの記録に残すこと。				
準備学習の具体的な方法	大阪府公共建築室のコンクールWEBサイトに掲載された過去の入選作品を見て参考にする。 要求提出物をすべて期限内に完了・提出しなければ単位は取得できないので、授業計画に沿って、遅れが生じないよう、授業時間外での学習に励むこと。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
前期-週2...1回につき2時間(45分×2)	後期-週2...1回につき2時間(45分×2)
<p>1回 建物用途の説明</p> <p>2回 建物の実例</p> <p>3回 実技課題 1小規模の保育所(課題説明・エスキス)</p> <p>4回 実技課題 1小規模の保育所(エスキス)</p> <p>5回 実技課題 1小規模の保育所(エスキス)</p> <p>6回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>7回 実技課題 1小規模の保育所 中間発表・講評会</p> <p>8回 実技課題 1小規模の保育所(以降、製図・模型製作など)</p> <p>9回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>10回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>11回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>12回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>13回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>14回 実技課題 1小規模の保育所</p> <p>15回 実技課題 1 提出・発表・講評</p> <p>16回 実技課題 2美術館・博物館(課題説明・エスキス)</p> <p>17回 実技課題 2美術館・博物館(エスキス)</p> <p>18回 実技課題 2美術館・博物館(エスキス)</p> <p>19回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>20回 実技課題 2美術館・博物館 中間発表・講評会</p> <p>21回 実技課題 2美術館・博物館(以降、製図・模型製作など)</p> <p>22回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>23回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>24回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>25回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>26回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>27回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>28回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>29回 実技課題 2美術館・博物館</p> <p>30回 実技課題 2 提出・発表・講評</p>	<p>31回 大阪府公共建築室のコンペ課題 課題説明1</p> <p>32回 大阪府公共建築室のコンペ課題 課題説明2</p> <p>33回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>34回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>35回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>36回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>37回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>38回 大阪府公共建築室のコンペ課題(エスキス)</p> <p>39回 大阪府公共建築室のコンペ課題 中間発表会</p> <p>40回 大阪府公共建築室のコンペ課題 中間講評会</p> <p>41回 大阪府公共建築室のコンペ課題(以降、製図・模型製作など)</p> <p>42回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>43回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>44回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>45回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>46回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>47回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>48回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>49回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>50回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>51回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>52回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>53回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>54回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>55回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>56回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>57回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>58回 大阪府公共建築室のコンペ課題</p> <p>59回 大阪府公共建築室のコンペ課題提出</p> <p>60回 大阪府公共建築室のコンペ発表・講評会</p>

科目名称	建築計画				
教員名/実務経験	高島大輔/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書を中心に建築士として実務に携わる立場をいかして建築計画に関する実践的な講義を行う。				
目的	人間の行為と建築空間、建築と社会の関わりなどについて考察する。 実際の建築設計において基礎となる各用途の建築計画の基本を修得する。				
到達目標	建築設計のための、基本的な計画ができるようになる。 建築空間と人間の生活・行動の関係を理解する。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	学習した内容を平行して行われる設計製図の実習に反映させること。				
準備学習の具体的な方法	復習として、周囲の建築物や空間のなかで、講義で取り上げた内容に関連する部分を良く観察し、理解を深めること。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 建築計画の位置づけ(建築計画と設計、建築計画の分野と理念、建築計画学の歴史)</p> <p>2回 建築計画の理念1(生活像と建築空間、生活と空間の対応)</p> <p>3回 建築計画の理念2(建築空間の形成における社会と技術の影響、生活像の設定と建築空間の計画)</p> <p>4回 建築計画のための調査1(調査の意義、建築利用者の把握、環状認識のための調査)</p> <p>5回 建築計画のための調査2(問題解明のための調査、調査の手法、調査計画上の問題点)</p> <p>6回 建築設計の方法1(設計方法論の意義、設計行為の現状)</p> <p>7回 建築設計の方法2(設計行為の問題、設計行為の体系化)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 集合住宅(集合住宅計画上の問題、都市環境と集合住宅の形態、集合の計画、住戸の計画)</p> <p>10回 学校建築1(学制と学校建築、学校の運営方式と教室、教室の形と大きさ)</p> <p>11回 学校建築2(施設のまとまりと結びつき、校舎配置と外部とのつながり)</p> <p>12回 事務所建築1(建築の収益性と生活機能、収益性の追求、生活空間の追求)</p> <p>13回 コミュニティー施設1(住宅地の生活構成、コミュニティ施設の計画)</p> <p>14回 規模計画(規模計画とは何か、規模計画のプロセス、規模計画の実例、寸法計画、概念、過程、方法)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	建築史				
教員名/実務経験	北村泰之/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書を中心に、スライドなどを交え、日本とヨーロッパを中心とした建築の歴史について講義を行う。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	日本建築ならびにヨーロッパ建築の歴史を概観し、建築の誕生や発展について学ぶ。時代や地域ごとの建築造形・意匠の特徴、それらを生み出した技術などを学ぶ。 講義を通して建築を学ぶ面白さや難しさ、あるいは建築の奥深さなどを体感し、建築に対する興味や関心を深める。				
到達目標	日本建築とヨーロッパ建築の歴史の変遷を理解する。 日本建築やヨーロッパ建築の造形や意匠などの特徴や相違を理解する。 建築への興味が高まり、自ら学ぶ態度が身に付く。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業で習った建築で、日帰りで見学できるものは、実際に見に行くことが望ましい。				
準備学習の具体的な方法	講義中はノートを取り、次回講義までによく復習しておくこと。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 日本古代の建築1(神社建築の成立、飛鳥・奈良時代の仏寺建築)</p> <p>2回 日本古代の建築2(都城の制、古代住宅建築、平安時代の宗教建築)</p> <p>3回 日本中世の建築(新しい仏寺建築様式、和様と斯様式の影響、中世の住宅)</p> <p>4回 日本近世の建築1(城郭建築、近世住宅、数寄屋建築)</p> <p>5回 日本近世の建築2(城下町、霊朝と宗教建築、農家の発達、技術の発達)</p> <p>6回 西洋古代の建築(エジプト建築、オリエント建築、ギリシャ建築、ローマ建築)</p> <p>7回 西洋中世の建築(ビザンチン建築、イスラム建築、ロマネスク建築、ゴシック建築)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 西洋近世の建築1(ルネサンス建築、バロック建築、ロココ建築)</p> <p>10回 西洋近世の建築2(ネオクラシシズム建築、ピクチャレスク建築、ネオルネサンスとネオバロック建築)</p> <p>11回 近代建築の発生(産業革命と建築、近代建築運動のはじまり、近代建築の造形的開拓、近代建築様式の確立)</p> <p>12回 近代建築の発展(第一次世界大戦後の近代建築、国際建築の発展、近代建築の普及)</p> <p>13回 日本の近代建築(産業革命と洋風建築、耐震建築構造の発展、近代建築思潮と国際建築様式の発展)</p> <p>14回 現代建築(都市文明の進展、新しい建築技術、建築と生活環境)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	0

科目名称	インテリア計画				
教員名/実務経験	米田匡志/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	4	学年	1	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義・演習
概要	図表や写真等の資料、実物材料サンプル等を適宜提示しながら、オリジナルテキストを中心に講義を行う。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	建築の、特にその内部空間に着目し、その企画や設計・管理にかかわる基礎的知識を習得する。				
到達目標	さまざまな工法・仕上げについての知識を有し、インテリア計画に活用することができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	各回授業で扱うオリジナルテキストの当該箇所を予習し、参考図書等で下調べをする。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週2回…1回につき2時間(45分×2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回 インテリアの歴史(日本の歴史)</li> <li>2回 インテリアの歴史(世界の歴史)</li> <li>3回 インテリアの概念</li> <li>4回 生活と住まい</li> <li>5回 住まいの性能</li> <li>6回 色彩とテクスチャー(1)</li> <li>7回 色彩とテクスチャー(2)</li> <li>8回 空間の認知</li> <li>9回 スケール感について</li> <li>10回 空間行動の諸相(1)開放感と閉鎖性</li> <li>11回 空間行動の諸相(2)閉所、広域</li> <li>12回 空間行動の諸相(3)物理尺度と心理尺度</li> <li>13回 インテリアと人間工学について</li> <li>14回 人間工学の意味</li> <li>15回 第1回定期試験</li> <li>16回 人体の大きさと重さ</li> <li>17回 計測値とその応用</li> <li>18回 姿勢と動作</li> <li>19回 作業域</li> <li>20回 動作空間</li> <li>21回 家具の分類</li> <li>22回 家具の構造</li> <li>23回 機能寸法の考え方、インテリアの安全</li> <li>24回 家具への応用、インテリアへの応用</li> <li>25回 モジュラーコーディネーション</li> <li>26回 グリッドプランニング(1)</li> <li>27回 グリッドプランニング(2)</li> <li>28回 配置と動線(1)</li> <li>29回 配置と動線(2)</li> <li>30回 第2回定期試験</li> </ul>	0

科目名称	インテリアデザイン I				
教員名/実務経験	馬場龍/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義・実習
概要	教科書を中心に講義・演習を行う。演習は、現実的な空間を把握する為に調査、見学をする。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義・指導を行う。				
目的	建築の、特にインテリアに重点を置き、空間計画の基礎知識・基礎技法を演習と側面的な講義によって修得する。				
到達目標	さまざまなインテリアエレメントについて知識を有し、計画に活かすことができる。 インテリア空間について、その特性や魅力を語り、表現することができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	日頃から、これはよいと思えるインテリア空間をスケッチや写真などで記録に残すこと。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	演習課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 はじめに、インテリアデザインの現状</p> <p>2回 インテリアエレメントの分類と規格(1)</p> <p>3回 インテリアエレメントの分類と規格(2)</p> <p>4回 インテリアエレメントの分類と規格(3)</p> <p>5回 人と家具(作業域)</p> <p>6回 人と家具(モジュール・クリアランス)</p> <p>7回 インテリアエレメントについての調査</p> <p>8回 インテリアエレメントについての調査、レポート</p> <p>9回 レポートの発表・講評</p> <p>10回 レポートの発表・講評</p> <p>11回 ライフスタイルと価値観(1)</p> <p>12回 ライフスタイルと価値観(2)</p> <p>13回 見学～建築様式、そのインテリア空間(1)</p> <p>14回 見学～建築様式、そのインテリア空間(1) レポート</p> <p>15回 レポートの発表・講評</p>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 レポートの発表・講評</p> <p>17回 見学～建築様式、そのインテリア空間(2)</p> <p>18回 見学～建築様式、そのインテリア空間(2) レポート</p> <p>19回 レポートの発表・講評</p> <p>20回 レポートの発表・講評</p> <p>21回 生活行為と単位空間(1)</p> <p>22回 生活行為と単位空間(2)</p> <p>23回 見学～原始住居</p> <p>24回 見学～原始住居 レポート</p> <p>25回 レポートの発表・講評</p> <p>26回 レポートの発表・講評</p> <p>27回 見学～公共空間、そのインテリアデザイン</p> <p>28回 見学～公共空間、そのインテリアデザイン レポート</p> <p>29回 レポートの発表・講評</p> <p>30回 レポートの発表・講評</p>

科目名称	インテリアデザインⅡ				
教員名/実務経験	馬場龍/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義・実習
概要	複数の実習課題を与え、それへの補足的講義と実例見学をあわせて行い、知識と技術の習得を図る。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	これまでにインテリアに関係する講義、演習で習得したことから、実習のテーマの中で生かし、表現することで、その専門的知識や技術を確かなものとする。				
到達目標	住宅やホテル等のインテリア計画を構想できる。 パースを描き美しく着色し、魅力的なプレゼンテーションができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	日頃から、これはよいと思えるインテリア空間をスケッチや写真などで記録に残すこと。				
準備学習の具体的な方法	要求提出物をすべて期限内に完了・提出しなければ単位は取得できないので、授業計画に沿って、遅れが生じないように、授業時間外での学習に励むこと。				
単位認定の方法	演習課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回 住宅の共用空間のインテリアに関する講義(1)</li> <li>2回 住宅の共用空間のインテリアに関する講義(2)</li> <li>3回 実例見学(モデルルーム)</li> <li>4回 実例見学(モデルルーム)</li> <li>5回 LDKのインテリア実習(1)</li> <li>6回 LDKのインテリア実習(2)</li> <li>7回 LDKのインテリア実習(3)</li> <li>8回 LDKのインテリア実習(4)</li> <li>9回 LDKのインテリア実習(5)提出・発表</li> <li>10回 LDKのインテリア実習(6)講評会</li> <li>11回 商業施設のインテリアに関する講義(1)</li> <li>12回 商業施設のインテリアに関する講義(2)</li> <li>13回 ホテルのロビーのインテリア実習(1)</li> <li>14回 ホテルのロビーのインテリア実習(2)</li> <li>15回 ホテルのロビーのインテリア実習(3)</li> </ul>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>16回 ホテルのロビーのインテリア実習(4)</li> <li>17回 ホテルのロビーのインテリア実習(5)提出・発表</li> <li>18回 ホテルのロビーのインテリア実習(6)講評会</li> <li>19回 さまざまな施設のインテリアに関する講義(1)</li> <li>20回 さまざまな施設のインテリアに関する講義(2)</li> <li>21回 インテリア演習(自由課題)(1)テーマの設定・資料収集</li> <li>22回 インテリア演習(自由課題)(2)テーマの設定・資料収集</li> <li>23回 インテリア演習(自由課題)(3)テーマ、収集資料や実例等の発表</li> <li>24回 インテリア演習(自由課題)(4)各テーマに対する補足的講義</li> <li>25回 インテリア演習(自由課題)(5)</li> <li>26回 インテリア演習(自由課題)(6)</li> <li>27回 インテリア演習(自由課題)(7)</li> <li>28回 インテリア演習(自由課題)(8)</li> <li>29回 インテリア演習(自由課題)(9)提出・発表</li> <li>30回 インテリア演習(自由課題)(10)講評会</li> </ul>

科目名称	環境工学				
教員名/実務経験	成松正朗/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書を中心に、建築における環境工学の基本を概説する。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	建築空間を人間にとって決適で健康的なものにするための環境(室内温度、日照、採光、騒音など)について学ぶ。				
到達目標	日本における気候と住まいの特徴を説明できる 室内環境を良好なものとするための基本的計算ができる。 (熱貫流量、換気計算、透過損失等)				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	小テストや課題を活用し理解を深めること。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 概論・序論</p> <p>2回 熱・湿気環境1(温熱要素に関する基本事項と快適条件、屋外気候)</p> <p>3回 熱・湿気環境2(太陽位置と日照、熱環境)</p> <p>4回 熱・湿気環境3(湿気と結露、冷暖房計画のための基礎知識)</p> <p>5回 熱・湿気環境4(課題演習)</p> <p>6回 空気環境1(空気汚染の種類とその指標、空気清浄に関する目標値)</p> <p>7回 第1回定期試験</p> <p>8回 空気環境2(必要換気量、換気計画、室内気流と通風計画)</p> <p>9回 音環境1(音に関する基本事項、音響設計計画)</p> <p>10回 音環境2(騒音防止計画)</p> <p>11回 音環境3(課題演習)</p> <p>12回 光環境1(光に関する基本事項、人工照明計画)</p> <p>13回 光環境2(採光計画)</p> <p>14回 光環境3(課題演習)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	建築設備				
教員名/実務経験	米田匡志/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	<p>建築設備を構成する給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備、昇降機設備、防災設備等について概説する。          建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。</p>				
目的	<p>建築の設計計画の際、必ず考慮しておかなくてはならない基本的な建築設備の知識を習得する。観念的な理論中心ではなく、具体的に実務に即した知識や方法を中心に講義を行う。</p>				
到達目標	<p>建築設備の概要と役割について説明できる。</p>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	<p>各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。</p>				
準備学習の具体的な方法	<p>特になし。</p>				
単位認定の方法	<p>定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。</p>				
評価の基準	<p>評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。</p>				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 設備と建築のかかわり(建築ができるまで、建築設備とは、設備計画の進め方)</p> <p>2回 住宅の設備計画1(企画から間取りまで、計画したい設備)</p> <p>3回 住宅の設備計画2(冷暖房設備の計画、給排水・衛生設備の計画)</p> <p>4回 住宅の設備計画3(電気設備の計画)</p> <p>5回 共同住宅の設備計画1(全体計画の要点、平面計画と設備スペース)</p> <p>6回 共同住宅の設備計画2(ふさわしい設備の選び方、暖房設備の計画)</p> <p>7回 共同住宅の設備計画3(給排水・衛生設備の計画、電気設備の計画)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 事務所建築の設備計画1(基本計画、事務所に必要な設備)</p> <p>10回 事務所建築の設備計画2(設備関係諸室の計画、空気調和方式)</p> <p>11回 事務所建築の設備計画3(空気調和設備の計画、給排水・衛生設備の計画)</p> <p>12回 事務所建築の設備計画4(電気設備の計画)</p> <p>13回 設備設計の実例1(自宅の設備設計例、共同住宅の設備設計例)</p> <p>14回 設備設計の実例2(事務所建築の設備設計例)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	0

科目名称	照明計画				
教員名/実務経験	北村泰之/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	オリジナルテキストを中心に照明計画に関わる講義を行い、後半には具体的な計画課題に取り組む。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	環境デザインの一部としての照明計画を概説する。 照明工学の基礎知識から、建築照明デザインの実務の流れまで、全容を俯瞰する。				
到達目標	照明計画に関わる基礎的知識を持っている。 用途に応じて、適切な照明計画ができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	復習として、周囲の建築物や空間のなかで、講義で取り上げた内容に関連する部分を良く観察し、理解を深めること。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 照明の基礎1(放射と光、測光量と単位)</p> <p>2回 照明の基礎2(目と見え方)</p> <p>3回 光源1(発光の原理、白熱電球、特殊電球)</p> <p>4回 光源2(放電現象、蛍光灯)</p> <p>5回 光源3(HIDランプ、その他の光源、昼光)</p> <p>6回 照明器具(照明器具の光学、照明器具の構造と種類)</p> <p>7回 照明計算1(配光、光量計算)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 照明計算2(点光源及び線光源による直接照度、面光源による直接照度、相互反射)</p> <p>10回 屋内照明1(照明設計の目的、照明設計の要件、照明設計の手順)</p> <p>11回 屋内照明2(照明設計の実際、照明経済比較)</p> <p>12回 屋外照明(道路照明、トンネル照明、屋外スポーツ照明)</p> <p>13回 放射の応用(放射の作用効果、紫外線の応用、可視光の視覚以外への応用、赤外線への応用)</p> <p>14回 色と測光(色と表示方法、測色、測光)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	構造力学				
教員名/実務経験	餅井博雄/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	4	学年	2	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	教科書にもとづき、適宜演習問題に取り組み、解説を交えながら、構造力学の基礎について詳述する。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	建築物や各種構造物が、力学的にどのような構造になっているか、構造力学の基礎理論や原理を理解させる。 荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に関する基本的事項を学び、建築構造物の設計、計画ができるようになるための基礎を身に付ける。				
到達目標	力・力のモーメントについて理解し、力の合成と分解ができるようになる。 簡単な荷重を受ける単純梁の応力図を描くことができる。 任意断面の図心位置、および図心軸に対する断面一次モーメント、断面二次モーメントを求めることができる。 静定ラーメン、静定トラスについて、算式解法により応力を求めることができるようにする。 不静定構造をたわみ角法及び固定モーメント法により解くことができるようにする。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	講義内容を授業だけで理解するのは困難であり、予習および復習が不可欠。 自己学習の習慣を身に付けること。				
準備学習の具体的な方法	授業で行った演習をよく復習すること。 レポートは返却するので、それらを活用し理解を深めること。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1...1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 オリエンテーション～構造力学の概要および建築デザインとの関係</p> <p>2回 力(力、力の図示法、モーメントと反力、力の平行四辺形)</p> <p>3回 構造物の種類1(構造物の種類、荷重、反力)</p> <p>4回 構造物の種類2(応力、構造物の安定・不安定、静定・不静定)</p> <p>5回 力の釣り合い1(合成と分解・図式解法)</p> <p>6回 力の釣り合い2(合成と分解・数式解法、力の釣り合い、骨組の反力)</p> <p>7回 静定骨組の応力1(応力の種類、図示法)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 静定ばりの応力1(片持ち梁)</p> <p>10回 静定ばりの応力2(単純梁)</p> <p>11回 曲げモーメント、せん断力、荷重の相互関係</p> <p>12回 静定ラーメンの応力</p> <p>13回 静定トラスの応力1(節点法)</p> <p>14回 静定トラスの応力2(切断法)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>後期-週1...1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 引張・圧縮応力度とひずみ度</p> <p>17回 応力ひずみ度とヤング係数</p> <p>18回 曲げ応力度、せん断応力度</p> <p>19回 断面の諸係数1(断面積、断面1・2次モーメント)</p> <p>20回 断面の諸係数2(断面係数、断面2次半径)</p> <p>21回 座屈</p> <p>22回 第3回定期試験</p> <p>23回 静定骨組の変形1(概説、仮想仕事の原理)</p> <p>24回 静定骨組の変形2(モールの定理)</p> <p>25回 不静定構造物の解法1(応力法)</p> <p>26回 不静定構造物の解法2(たわみ角法)</p> <p>27回 不静定構造物の解法2(固定モーメント法)</p> <p>28回 ラーメンを解く(略算法)</p> <p>29回 意匠デザインと構造～建物の構造計画</p> <p>30回 第4回定期試験</p>

科目名称	建築一般構造				
教員名/実務経験	餅井博雄/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	4	学年	1	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門基礎	授業の種類	講義
概要	<p>建築の安全性の基礎となる建築構造の分類、特徴、構法などについて、教科書を中心に概説する。          建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。</p>				
目的	<p>建築を初めて学ぶにあたり、建築物を成立させている部位と構成・しくみを知り、多様な建築技術の概要を把握する。建築材料、架構、仕上げなどの基礎的な知識、実際の設計・施工の現場における諸問題まで幅広く触れる。</p>				
到達目標	<p>建築構造の分類、各種構法を理解し説明できる。          木造の分類と各部名称としくみ、特徴や施工法を理解し説明できる。          鉄骨構造の分類と各部名称としくみ、特徴や施工法を理解し説明できる。          鉄筋コンクリート構造の分類と各部名称としくみ、特徴や施工法を理解し説明できる。</p>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	<p>講義ノートを必ず作成し、事前・事後学習を必ず行う。          授業で扱った内容について、身近な建築物、工事現場等で機会あるごとに注意を払って体感する。</p>				
準備学習の具体的な方法	<p>各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、参考図書等で下調べをする。</p>				
単位認定の方法	<p>定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。</p>				
評価の基準	<p>評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。</p>				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 建築物と基礎1(建築構造と基礎、構造と地盤、地盤調査)</p> <p>2回 建築物と基礎2(土工事、地業)</p> <p>3回 基礎構造(地盤と地業と基礎、基礎構造)</p> <p>4回 木造構造1(木材、接合部、軸組)</p> <p>5回 木造構造2(小屋組、床組、ツーバイフォー構造)</p> <p>6回 鉄筋コンクリート構造1・2(鉄筋コンクリート構造とは、鉄筋コンクリートの材料とは、許容応力度)</p> <p>7回 鉄筋コンクリート構造1・3(梁柱・せん断補強、スラブ・耐震壁・基礎)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 壁式鉄筋コンクリート構造(壁式鉄筋コンクリート構造とは、構造の規模規定、材料の品質)</p> <p>10回 プレストレスコンクリート構造(プレストレスコンクリート構造とは、材料・部材の設計、構造規模)</p> <p>11回 鉄骨構造1(鉄骨構造とは、材料)</p> <p>12回 鉄骨構造2(接合、梁・柱の構造)</p> <p>13回 鉄骨鉄筋コンクリート構造1(鉄骨鉄筋コンクリート構造とは)</p> <p>14回 鉄骨鉄筋コンクリート構造2(梁・柱、接合、梁・柱、その他)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 組積造(組積造とは、煉瓦造、石造)</p> <p>17回 補強コンクリートブロック造1(補強コンクリートブロック造とは、空洞コンクリートブロック)</p> <p>18回 補強コンクリートブロック造2(構造計画、施工)</p> <p>19回 屋根1・2・3</p> <p>20回 階段1・2</p> <p>21回 天井1・2</p> <p>22回 第3回定期試験</p> <p>23回 壁体仕上1(壁体と壁仕上・壁の保護・乾式構造仕上)</p> <p>24回 壁体仕上2(湿式構造仕上・コンクリート打放し・木造断熱壁)</p> <p>25回 床仕上1(カーペット敷、木製床張り、ゴム合成樹脂のタイル張り)</p> <p>26回 床仕上2(塗り仕上、石張り、タイル張り仕上、特殊床張り)</p> <p>27回 開口部・建具1(建具とは、建具枠、額縁)</p> <p>28回 開口部・建具2(建具構造、建具金物、ガラスのはめ込み)</p> <p>29回 特殊構法(防腐、防火、耐火、耐風)</p> <p>30回 第4回定期試験</p>

科目名称	耐震工学				
教員名/実務経験	餅井博雄/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	地震を受ける構造物の基本的性状、応答計算の方法について演習を通じて理解する。過去の地震における被災例、耐震設計法などについて建築士としての体験を踏まえ講義する。				
目的	地震と地震動の関係、地震動の性質、地震による被害と対策など、耐震設計で必要となる基礎知識を修得する。動的解析法について講述し、耐震設計の基本的な考え方を学ぶ。				
到達目標	地震が建築物に及ぼす影響を理解できるようにする。 地震による外力を数式で説明でき、建築物の設計に関する基本的な考え方を説明できる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	講義内容を授業だけで理解するのは困難であり、予習および復習が不可欠。自己学習の習慣を身に付けること。				
準備学習の具体的な方法	自己学習のための課題を与えるので、しっかりと予習・復習に取り組むこと。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 ガイダンス</p> <p>2回 耐震設計と被害地震(耐震設計の発展に寄与した被害地震)</p> <p>3回 建築構造物のモデル化(建築構造物のモデルの紹介と質点系モデルの成立条件)</p> <p>4回 質点系モデル1(質点系モデルの質点の質量とそれらをつなぐバネのバネ係数の算定)</p> <p>5回 質点系モデル2(質点の平衡方程式の作成)</p> <p>6回 固有周期と固有モード1(建物の振動を理解するための基本的な量である固有周期と固有モードの導出)</p> <p>7回 固有周期と固有モード2(建物の振動を理解するための基本的な量である固有周期と固有モードの性質及び意味)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 建物の地震応答1(建物に入る地震動に対する各質点の振動を固有周期・固有モード・刺激関数を用いて表す)</p> <p>10回 建物の地震応答2(建物に入る地震動に対する各質点の振動を固有周期・固有モード・刺激関数などの意味について)</p> <p>11回 応答スペクトル(応答スペクトルの意味と計算法について)</p> <p>12回 モーダルアナリシス(層せん断力と層間変形角の計算について)</p> <p>13回 新耐震設計法(新耐震設計法について)</p> <p>14回 まとめ演習(固有周期と固有モード及びモーダルアナリシスの演習)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	建築材料				
教員名/実務経験	田谷孝壽/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	自然素材から新素材まで各種建築材料の基本的な物性と活用手法について、教科書を中心に詳述する。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	建築物を構成する各種建築材料の特性と物性を理解し、部位ごとの要求性能と材料選定に際しての基本的事項を身に付ける。				
到達目標	建築設計者・技術者として必要な建築材料に関する基礎知識を持っている。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業の予習及び復習が不可欠である。				
準備学習の具体的な方法	各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、参考図書等で下調べをする。				
単位認定の方法	定期試験の点数を中心に、平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
後期-週1回…1回につき2時間(45分×2) 1回 総論 2回 木材 3回 金属材料 4回 金属材料 5回 セメント、コンクリート 6回 セメント、コンクリート製品 7回 第1回定期試験 8回 セメント、コンクリート製品 9回 石材、粘土製品およびガラス 10回 石灰および石膏系材料 11回 プラスチック材料、プラスチック製品 12回 塗料、接着材、雑材料 13回 防火、耐火材料 14回 断熱、音響材料、材料試験 15回 第2回定期試験	0

科目名称	材料実習				
教員名/実務経験	村上隆行/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	2	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	専門	授業の種類	講義・実験
概要	班単位で実験・実習を行い、出席状況やレポートにより成績評価を行う。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な指導を行う。				
目的	建築材料(木材・コンクリート・鋼材等)の各種材料試験や強度試験を行い、材料の特徴・強度について学ぶ。 また、建築構造部材・接合部の特徴的な挙動を把握する。				
到達目標	実験に必要なデータ整理方法が説明できる。 実験結果木材の性質が説明できる。 実験結果からコンクリートの性質が説明できる。 実験結果から鉄筋の性質が説明できる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	グループで協力し、準備・片付・レポート作成を行うこと。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週2回…1回につき4時間(45分×4)</p> <p>1回 ガイダンス</p> <p>2回 コンクリートの調合設計について(1)</p> <p>3回 コンクリートの調合設計について(2)</p> <p>4回 各種建築材料実験法と構造実験法について</p> <p>(1)</p> <p>5回 各種建築材料実験法と構造実験法について</p> <p>(2)</p> <p>6回 各種建築材料実験法と構造実験法について</p> <p>(3)</p> <p>7回 鉄筋コンクリート梁の製作</p> <p>8回 鉄筋コンクリート梁の製作、スランプ試験等材料試験</p> <p>9回 セメントの比重、強度試験、フロー試験(1)</p> <p>10回 セメントの比重、強度試験、フロー試験(2)</p> <p>11回 骨材のふるいわけ試験、単位容積重量および実績率試験(1)</p> <p>12回 骨材のふるいわけ試験、単位容積重量および実績率試験(2)</p> <p>(1)</p> <p>13回 鋼材の硬さ試験、コンクリートの非破壊試験</p> <p>(2)</p> <p>14回 鋼材の硬さ試験、コンクリートの非破壊試験</p> <p>(2)</p> <p>15回 実験結果についてのレポート報告(1)</p>	<p>後期-週2回…1回につき4時間(45分×4)</p> <p>16回 実験結果についてのレポート報告(2)</p> <p>17回 コンクリートの強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(1)</p> <p>18回 コンクリートの強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(2)</p> <p>19回 鋼材、高力ボルト接合部の強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(1)</p> <p>20回 鋼材、高力ボルト接合部の強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(2)</p> <p>21回 木材の強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(1)</p> <p>22回 木材の強度、応力-ひずみ特性に関する実験実習(2)</p> <p>23回 鉄筋コンクリート梁の載荷実験演習(1)</p> <p>24回 鉄筋コンクリート梁の載荷実験演習(2)</p> <p>25回 鋼梁の載荷実験演習(1)</p> <p>26回 鋼梁の載荷実験演習(2)</p> <p>27回 木質部材接合部の載荷実験演習(1)</p> <p>28回 木質部材接合部の載荷実験演習(2)</p> <p>29回 実験結果についてのレポート報告(1)</p> <p>30回 実験結果についてのレポート報告(2)</p>

科目名称	レンダリング				
教員名/実務経験	中川泰朗/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	60	科目区分	共通基礎	授業の種類	講義・実習
概要	正確で美しい立体表現が出来るよう、授業の前半で概説をし、実習を行う。 実務に携わる立場をいかして、実践的な指導を行う。				
目的	基本的な図法をマスターすることから始め、どのような形態の建築であっても自由自在に立体表現ができる技術を修得する。				
到達目標	立体に適切に着色が出来る。 立体に適切な陰影をつけることが出来る。 さまざまなアングルのパースが描ける。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。				
準備学習の具体的な方法	要求提出物をすべて期限内に完了・提出しなければ単位は取得できないので、授業計画に沿って、遅れが生じないように、授業時間外での学習に励むこと。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
後期-週2回…1回につき2時間(45分×2) 1回 カラーリング1 2回 カラーリング2 3回 透視図法の解説 4回 平行透視図1 5回 平行透視図2 6回 有角足線透視図1 7回 有角足線透視図2・3 8回 有角足線透視図4・5 9回 基線透視図1・2 10回 基線透視図3・4 11回 測点透視図1・2 12回 測点透視図3・4 13回 まとめ1 14回 第3回定期試験 15回 鳥かん透視図1・2 16回 鳥かん透視図3・4 17回 室内透視図1・2 18回 室内透視図3・4 19回 室内透視図5・6 20回 室内透視図7・8 21回 アクソノメトリック1・2 22回 アクソノメトリック3・4 23回 簡略図法1・2 24回 簡略図法3・4 25回 透視図の陰影1・2 26回 透視図の陰影3・4 27回 透視図の陰影5・6 28回 透視図の陰影7・8 29回 まとめ2 30回 第4回定期試験	0

科目名称	インテリアエレメント				
教員名/実務経験	村上隆行/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	インテリア空間を構成する各部ならびに家具、照明、アクセサリ等のインテリア・エレメントについて、建築設計事務所での設計事例を交えながら講義を行う。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	インテリアを構成する商品、機器、部材、資材等の構造や特性についての知識を習得し、インテリア計画、設計に活かせるようにする。				
到達目標	インテリアエレメントの構成要素について説明できる。 インテリアの「素材、色彩の特性」の概要について説明できる。 仕上げ材と下地、構造体との関係を説明できる。 家具の機能、構造、仕様、概要を理解し説明できる。 インテリアのエレメント、素材、色彩、照明、設備をふまえた計画、設計ができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	復習として、周囲の建築物や空間のなかで、講義で取り上げた内容に関連する部分を良く観察し、理解を深めること。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 家具1(家具の分類)</p> <p>2回 家具2(家具の構造)</p> <p>3回 家具3(椅子の構造)</p> <p>4回 家具4(テーブル・机の構造)</p> <p>5回 家具5(収納家具の構造)</p> <p>6回 光と照明1(明るさに関する5つの用語と 単語)</p> <p>7回 光と照明2(照明の質に関する評価)</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 光と照明3(鉛直面配光曲線)</p> <p>10回 光と照明4(間接直接照明システム・光 源)</p> <p>11回 光と照明5(全般照明用器具)</p> <p>12回 光と照明6(局部照明用器具)</p> <p>13回 設備機器1(家庭用設備機器)</p> <p>14回 設備機器2(事務所・店舗用設備機器)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	数学				
教員名/実務経験	村上隆行/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	共通基礎	授業の種類	講義・演習
概要	教科書にもとづき、計算方法など説明し、演習問題を交えながら、建築を学ぶにあたり必要な数学を確実に理解できるよう授業を進める。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	構造力学、環境、設計、測量など、建築のさまざまな分野で使用する基本的な数学を学ぶ。				
到達目標	建築を学ぶにあたり、基本的数学の重要性を理解する。 建築学で必要となる数量、単位について理解し、説明できる。 建築の面積、容積、高さ計算ができる。 基礎的な力の釣り合いに関する計算ができる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習する。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 単位や大きさなどの基礎知識(量・長さ・広さについて)</p> <p>2回 単位や大きさなどの基礎知識(割合・平均・単位について)</p> <p>3回 建築の面積に関する基礎知識</p> <p>4回 数式の基礎知識(面積・体積・比例式)</p> <p>5回 数式の基礎知識(平方根・連立方程式・2次方程式)</p> <p>6回 演習問題・解説</p> <p>7回 三角関数・建築における応用</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 ベクトル・建築に関するベクトル(合力・分力)</p> <p>10回 平面角・立体角</p> <p>11回 指数・対数</p> <p>12回 微分・積分</p> <p>13回 構造力学の基礎と微分・積分</p> <p>14回 演習問題・解説</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	0

科目名称	卒業制作				
教員名/実務経験	村上隆行/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	1	学年	2	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	実習
概要	各自が関心のあることをテーマとして取り上げ調査・研究を行い、デザインに取り組む。最終講義での発表を含め、作品について評価する。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義・指導を行う。				
目的	これまでに学習してきた建築・インテリア・CAD学習の総合的なまとめとして、自分自身で設定したテーマについて制作実習を行う。				
到達目標	社会に目を向け、課題を自ら見出すことができる。 自ら調べ、自ら考えて解決する能力を身に付けている。 自らのアイデア・提案内容を分かりやすく魅力的にプレゼンテーションできる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	2年間の、ひいては小学校からの修学の集大成と考え、作品をつくるために日夜努力すること。 発表までの工程をたて、計画的にすすめていくこと。 授業時間内は、講師のチェック・アドバイスが十分受けられるよう、準備をしておくこと。				
準備学習の具体的な方法	他校や大学の卒業設計展を見学したり、卒業生の作品などを十分研究して、参考にすること。 前回授業で受けたアドバイスについて、検討して反映した成果を次回授業までに用意しておく。				
単位認定の方法	作品の評価を中心に(50%)、発表内容(30%)平常点(20%)を加味して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
後期-週2回…1回につき3時間(45分×3) 1回 ガイダンス・卒業制作で取り組むことについて 2回 テーマの設定 3回 敷地調査・テーマに関する調査研究等 4回 // 5回 // 6回 テーマについて中間発表 7回 制作開始(エスキス) 8回 エスキス 9回 // 10回 // 11回 課題提出・作品評価 12回 外構・添景の作成方法 13回 住宅の3Dモデル作成課題(2) 14回 // 15回 // 16回 // 17回 課題提出・作品評価 18回 課題説明(自由課題) 19回 自由課題作品製作 20回 // 21回 // 22回 // 23回 課題中間提出・評価 24回 自由課題作品提出 25回 // 26回 // 27回 // 28回 // 29回 // 30回 作品提出・プレゼンテーション	0

科目名称	コンピュータⅡ				
教員名/実務経験	岩本賀件/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	1	学年	1	履修形態	選択
時間数	30	科目区分	共通基礎	授業の種類	実習
概要	実務でも利用しているOfficeソフトの操作をプリントによる課題を中心に指導し、習得させる。				
目的	Officeソフトを使用し、仕事で必要となる見積書や企画書・プレゼンテーションを作成できるようにする。				
到達目標	Wordで図や写真を使った文書が作れる。 Excelでグラフや表を使った文書が作れる。 PowerPointで写真やイラスト、動画を使ったプレゼンテーションが出来る。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	自分用のパソコンを所有し、日頃からOfficeソフトに触れることが望ましい。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2回 コンピュータの基本操作</li> <li>3・4回 文書の作成</li> <li>5回 文書の装飾・レイアウト等</li> <li>6回 画像や図の挿入</li> <li>7・8・9回 文書制作課題</li> <li>10・11回 表の作成</li> <li>12回 表計算・集計・グラフの作成等</li> <li>13回 画像や図の挿入</li> <li>14・15回 見積書作成課題</li> </ul>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>16・17回 プレゼンテーションソフトの解説</li> <li>18・19・20回 アニメーションの作成・調整</li> <li>21・22回 音声の挿入・調整</li> <li>23・24・25回 簡単な動画の作成</li> <li>26・27・28・29回 プレゼンテーション作成課題</li> <li>30回 課題発表・評価</li> </ul>

科目名称	コンピュータⅢ				
教員名/実務経験	岩本賀件/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	6	学年	2	履修形態	選択
時間数	180	科目区分	共通基礎	授業の種類	実習
概要	実務でも利用しているAdobeソフトの操作をプリントによる課題を中心に実践させ、習得させる。				
目的	Adobeソフトを使用し、画像やイラスト、レイアウトの作成・処理のトレーニングを行い、クリエイターとしての能力を身に付ける。				
到達目標	<p>写真の加工・編集ができる。</p> <p>図面を着色したり添景を加えたりするなどの加工ができる。</p> <p>写真や図形、図面を美しくレイアウトすることができる。</p> <p>パワーポイントを使って分かりやすく魅力的なプレゼンテーションが出来る。</p>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	自分用のパソコンにAdobeソフトを導入し、授業外でも制作できることが望ましい。雑誌やパンフレット、WEBサイトなど、日頃からそれらのレイアウト、配色、フォント等に関心を持って見る習慣を身に付けること。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>成 ター作成 長屋) ン</p> <p>1回 ガイダンス・各種ソフトの特徴について 2回 フォトショップ基本トレーニング① ロゴ作 3回 フォトショップ基本トレーニング② ポス 4回 フォトショップ第1課題 建築実例(住吉の 5回 “ 6回 “ 7回 フォトショップ第2課題 照明器具のデザイ 8回 “ 9回 “ 10回 “ 11回 課題提出・作品評価 12回 イラストレータ基本トレーニング① 着色 13回 “ 14回 “ 15回 イラストレータ基本トレーニング② 写真・ テキスト挿入</p>	<p>後期-週1回…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 イラストレータ基本トレーニング② 写真・ テキスト挿入 17回 イラストレータ基本トレーニング③ グラ 18回 イラストレータ基本トレーニング④ フ 19回 イラストレータ基本トレーニング⑤ さまざ 20回 イラストレータ第1課題 建築プレゼン 21回 “ 22回 “ 23回 “ 24回 “ 25回 イラストレータ第2課題 ポートフォリオ作 成 26回 “ 27回 “ 28回 “ 29回 “ 30回 課題提出・プレゼンテーション・作品評価</p>

科目名称	家具計画				
教員名/実務経験	米田匡志/有				
開講年度	2026年度後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	必修
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義
概要	住宅や店舗の家具設計に必要な材料の知識や図面の描き方、納まりなどを基本から応用まで実例を紹介しながら解説する。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義を行う。				
目的	インテリア、建築の計画において、顧客の満足度をより高めるためには、個々の身体や暮らしに応じたオリジナルの家具の提案が有効である。造作家具の計画に必要な知識を修得し、機能的で美しい造作家具の提案ができるようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造作家具を構成する材料について、その種類と特性を理解している。</li> <li>・家具の寸法、機能、必要金物、関連法規を理解している。</li> <li>・造作家具の制作図面が描ける。</li> </ul>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	身近にある家具について、日ごろからその材料、寸法等について注意深く観察する習慣をつけておく。 これはよい、と思った家具やそのディテール等をメモや写真などで記録すること。				
準備学習の具体的な方法	特になし。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
後期…週1回 1回 造作家具のプランニング 2回 造作家具の素材・コスト 3回 造作家具の仕組み 4回 造作家具のつくり方 5回 造作家具の材料① 6回 造作家具の材料② 7回 第1回定期試験 8回 家具金物 9回 家具照明 10回 造作家具の設計とディテール～本棚 11回 造作家具の設計とディテール～玄関収納 12回 造作家具の設計とディテール～テーブル、ベンチ 13回 造作家具の設計とディテール～造作キッチン① 14回 造作家具の設計とディテール～造作キッチン② 15回 第2回定期試験	0

科目名称	プレゼンテーション				
教員名/実務経験	村上隆行/有				
開講年度	2026年度前期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	1	学年	2	履修形態	選択
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義・実習
概要	インテリアや建築の計画をさまざまな技法を用いて魅力的に分かりやすくプレゼンテーションするため、実例で学びながら制作に取り組む。 建築士として実務に携わる立場をいかして実践的な講義・指導を行う。				
目的	的確に計画意図を伝えるための技術を身につける。 建築士である講師が実際に顧客に対して提出したプレゼンテーションボードやコンペ作品等を参照しながら、そこに使われているキーワードや表現技法、説明の手順等を理解し、自らの作品のプレゼンテーションに活用する。				
到達目標	テーマに応じて適切な技法を選択できる。 主題が明確に伝わるようなプレゼンテーションが出来る。				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。				
準備学習の具体的な方法	日頃から建築雑誌やインテリア関連本の表現に関心を持つようにすること。 その見やすさ・美しさなど、常に注意を払って参考にする。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期…週1回 前期</p> <p>1回 写真や図面を利用したプレゼンテーション1 (技法)</p> <p>2回 写真や図面を利用したプレゼンテーション2 (実技1・2)</p> <p>3回 パーステクニック技法を利用したプレゼンテーションボード1(技法)</p> <p>4回 パーステクニック技法を利用したプレゼンテーションボード2(実技1・2)</p> <p>5回 カラースキームボード&amp;サンプルボードの作り方1(技法)</p> <p>6回 カラースキームボード&amp;サンプルボードの作り方2(実技1・2)</p> <p>7回 第1回定期試験</p> <p>8回 レイアウトの基礎知識1(技法)</p> <p>9回 レイアウトの基礎知識2(実技1・2)</p> <p>10回 製本テクニック1(技法)</p> <p>11回 製本テクニック2(実技1・2)</p> <p>12回 モデリングテクニック(技法、実技)</p> <p>13回 もう一つのプレゼンテーション(技法)</p> <p>14回 もう一つのプレゼンテーション(実技)</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>0</p>

科目名称	CAD実習Ⅱ				
教員名/実務経験	森由利子/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	4	学年	2	履修形態	必修
時間数	120	科目区分	専門	授業の種類	実習
概要	CAD実習Ⅰに引き続き、実務経験をいかしてCADに関する実践的講義を行い、プリント課題を使用しながらCADの実技を行う。				
目的	CAD実習Ⅰに引き続き、CADを利用してより実践的な製図を行う。 ひとつおりの2次元建築図面を描き、簡単な3Dモデルも描けるようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADを使って平面図・立面図・断面図が描ける。</li> <li>・詳細図や矩計図を正しい縮尺で描き、出力できる。</li> <li>・CADを使って簡単な3Dモデルが描ける。</li> </ul>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	反復して実践を重ねることがCAD操作習得の近道である。 与えられた課題が出来て時間が余った場合も、おさらいや応用課題に取り組むなど、授業中に出来るだけパソコン、CAD操作に時間を割くこと。				
準備学習の具体的な方法	授業外における学習は特に必要ないが、日頃他の授業で接する建築図面の表現に関心を持つようにすること。 図面の縮尺、必要情報、その見やすさ・美しさなど、常に注意を払って参考にする事。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(50%)、平常点・定期試験を加味(50%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
前期-週2...1回につき2時間(45分×2)	後期-週2...1回につき2時間(45分×2)
<p>1回 操作画面のセットアップ、はじめましょう</p> <p>2回 図面ファイルの作成及びアクセス、図面の設定、画層及びオブジェクトの特性</p> <p>3回 表示コマンド、作図コマンド、オブジェクトスナップ、修正コマンド</p> <p>4回 情報コマンド、ハッチング、図面の注釈、寸法記入、ブロック</p> <p>5回 ユーティリティコマンド、印刷、選択セットの高度な使い方、マルチライン</p> <p>6回 オブジェクトと画層フィルタ、高度な基本設定とシステム変数、ブロックと属性</p> <p>7回 外部参照、オブジェクトのリンクと埋め込み(OLE)、3D図面の概要</p> <p>8回 3Dイメージの作成、ラスターイメージのサポート、ペーパー空間とモデル空間</p> <p>9回 拡張バッチ印刷ユーティリティ、データ管理、カスタマイズの概要</p> <p>10回 実技課題 1(建築意匠設計図 配置図)</p> <p>11回 実技課題 2(建築意匠設計図 平面図1)</p> <p>12回 実技課題 2(建築意匠設計図 平面図2)</p> <p>13回 実技課題 3(建築意匠設計図 立面図)</p> <p>14回 実技課題 4(建築意匠設計図 断面図)</p> <p>15回 第1回定期試験</p> <p>16回 実技課題 5(建築意匠設計図 平面詳細図1)</p> <p>17回 実技課題 5(建築意匠設計図 平面詳細図2)</p> <p>18回 実技課題 5(建築意匠設計図 平面詳細図3)</p> <p>19回 実技課題 6(建築意匠設計図 矩計図1)</p> <p>20回 実技課題 6(建築意匠設計図 矩計図2)</p> <p>21回 実技課題 6(建築意匠設計図 矩計図3)</p> <p>22回 実技課題 7(建築意匠設計図 各部詳細図1)</p> <p>23回 実技課題 7(建築意匠設計図 各部詳細図2)</p> <p>24回 実技課題 8(建築設備設計図 電灯配線図1)</p> <p>25回 実技課題 8(建築設備設計図 電灯配線図2)</p>	<p>31回 実技課題 11(建築構造設計図 杭伏図、基礎伏図1)</p> <p>32回 実技課題 11(建築構造設計図 杭伏図、基礎伏図2)</p> <p>33回 実技課題 12(建築構造設計図 床梁伏図1)</p> <p>34回 実技課題 12(建築構造設計図 床梁伏図2)</p> <p>35回 実技課題 12(建築構造設計図 床梁伏図3)</p> <p>36回 実技課題 12(建築構造設計図 床梁伏図4)</p> <p>37回 実技課題 13(建築構造設計図 軸組図1)</p> <p>38回 実技課題13(建築構造設計図 軸組図2)</p> <p>39回 実技課題14(建築構造設計図 各リスト1)</p> <p>40回 実技課題14(建築構造設計図 各リスト2)</p> <p>41回 実技課題15(建築構造設計図 各部配筋詳細図1)</p> <p>42回 実技課題15(建築構造設計図 各部配筋詳細図2)</p> <p>43回 第3回定期試験(1)</p> <p>44回 第3回定期試験(2)</p> <p>45回 実技課題15(建築構造設計図 各部配筋詳細図3)</p> <p>46回 実技課題15(建築構造設計図 各部配筋詳細図4)</p> <p>47回 実技課題16(建築施工図1)</p> <p>48回 実技課題16(建築施工図2)</p> <p>49回 実技課題16(建築施工図3)</p> <p>50回 実技課題16(建築施工図4)</p> <p>51回 実技課題16(建築施工図5)</p> <p>52回 実技課題16(建築施工図6)</p> <p>53回 実技課題16(建築施工図7)</p> <p>54回 実技課題16(建築施工図8)</p> <p>55回 実技課題17(建築企画プレゼンテーション1)</p> <p>56回 実技課題17(建築企画プレゼンテーション2)</p> <p>57回 実技課題17(建築企画プレゼンテーション3)</p> <p>58回 実技課題17(建築企画プレゼンテーション4)</p> <p>59回 第4回定期試験(1)</p> <p>60回 第4回定期試験(2)</p>

科目名称	コンピュータ概論				
教員名/実務経験	瓶井通/無				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	2	学年	1	履修形態	選択
時間数	60	科目区分	共通基礎	授業の種類	講義
概要	実務での経験をいかし、コンピュータを道具として正しく利用するために、IT技術に対する深い知識と理解を与える。				
目的	コンピュータを扱う技術者に必要とされる、ハードウェアとソフトウェアに関する知識について、その概要を論理的に把握できるようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに関する基本的な専門用語の意味を説明できる。</li> <li>・中央処理演算装置(CPU)について、構造を理解し説明できる。</li> <li>・各種記憶装置を説明できる。</li> <li>・通信の仕組みが理解できる。また、システムの信頼性を評価できる。</li> </ul>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。				
準備学習の具体的な方法	特にないが、授業で理解できなかった事項は、次回授業までによく復習しておくこと。				
単位認定の方法	平常点、小テスト、レポートの内容を加味して総合的に評価し、60点以上で単位を認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 仕事とコンピュータ1(仕事の進め方、コンピュータの使い方)</p> <p>2回 コンピュータの基本構成</p> <p>3回 ハードウェアの概要</p> <p>4回 ソフトウェアの概要</p> <p>5回 ネットワークの定義</p> <p>6回 ネットワークの機能</p> <p>7回 ネットワークの構成</p> <p>8回 第1回定期試験</p> <p>9回 通信回線</p> <p>10回 LANの概要1</p> <p>11回 LANの概要2</p> <p>12回 練習問題と解答1</p> <p>13回 練習問題と解答2</p> <p>14回 練習問題と解答3</p> <p>15回 第2回定期試験</p>	<p>後期-週1…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 LANの構成</p> <p>17回 インターネットの歴史</p> <p>18回 インターネットの仕組み</p> <p>19回 インターネットのサービス</p> <p>20回 インターネットの接続</p> <p>21回 インターネットとLAN</p> <p>22回 インターネットの最新技術</p> <p>23回 定期試験</p> <p>24回 情報セキュリティー</p> <p>25回 パスワード</p> <p>26回 関連法規</p> <p>27回 関連法規</p> <p>28回 EUC推進のため表現能力</p> <p>29回 EUC推進のため表現能力</p> <p>30回 定期試験</p>

科目名称	CG概論				
教員名/実務経験	森由利子/有				
開講年度	2026年度前後期				
開講学科	建築デザイン科				
単位	1	学年	2	履修形態	選択
時間数	30	科目区分	専門	授業の種類	講義・実習
概要	オリジナルテキストにより実務でも使用している「Google SketchUp」の使用方法について講義する。 実技課題に取り組みながら、3D設計について習得させる。				
目的	CADの授業で作成した3Dモデルをより精密なモデルへと仕上げ、プレゼンテーションにいかせるようにする。 設計段階での有力なツールとしても利用できるよう、アイデアをすぐに3D化し、さまざまな検討が出来るようにする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なモデルの作成、変形、加工ができる。</li> <li>・住宅建築の正確な3Dモデルが作成できる。</li> <li>・ウォークスルー機能を使ってバーチャルな空間のプレゼンテーションができる。</li> </ul>				
到達目標に向けての具体的な取り組み	授業時間以外にも、実技課題に精力的に取り組むこと。				
準備学習の具体的な方法	授業で使用するソフトは無料で入手出来るので、個人のPCにインストールし、授業時間外でも自習できるようにしておくことが望ましい。				
単位認定の方法	実技課題の評価を中心に(70%)、平常点を加味(30%)して総合的に評価し、評価点が60点以上の場合、認定する。				
評価の基準	評価点が100～90点を【秀】、89～80点を【優】、79～70点を【良】、69～60点を【可】とする。				

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
<p>前期-週1…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>1回 さまざまなCGの事例・ソフトについて  2回 3Dソフトの使用法・基礎的操作法  3回 簡単な立体モデルの作成  4回 モデルの変形・加工法  5回 着色・テクスチャ・陰影のつけ方  6回 レンダリング・プレゼン方法  7回 住宅の3Dモデル作成課題(1)  8回 “  9回 “  10回 “  11回 課題提出・作品評価  12回 外構・添景の作成方法  13回 住宅の3Dモデル作成課題(2)  14回 “  15回 “</p>	<p>後期-週1…1回につき2時間(45分×2)</p> <p>16回 課題提出・作品評価  17回 課題説明(自由課題)  18回 自由課題作品製作  19回 “  20回 “  21回 “  22回 “  23回 課題中間提出・評価  24回 自由課題作品提出  25回 “  26回 “  27回 “  28回 “  29回 “  30回 作品提出・プレゼンテーション</p>

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0

科目名称						0
教員名/実務経験						0
開講年度						0
開講学科						0
単位	0	学年	0	履修形態		0
時間数	0	科目区分	0	授業の種類		0
概要						0
目的						0
到達目標						0
到達目標に向けての具体的な取り組み						0
準備学習の具体的な方法						0
単位認定の方法						0
評価の基準						0

授業計画1(前期)	授業計画2(後期)
0	0